

東日本大震災
あの日を未来につなぐ、宮城のいま。

2020.3.11

NOW IS.

Vol.
47
March, 2020

ナウイズ
毎月11日発行

八乙女光 Hey! Say! JUMP
in 牡鹿半島 石巻市



知られざる鮎川の魅力、
若い人にも知ってほしい。

NOW IS. 対談

対談

Talk Session

in 石巻 石牡

ISHINOMAKI Oshika

クジラのまちの文化と魅力を発信したい。

東日本大震災が発生してから9年が経ちました。この日、石巻市の牡鹿半島、鮎川浜に訪れたのはHey! Say! JUMPのメンバー八乙女光さん。「三陸には小さい時に遊びに行ってきたことがあるから、なんだか懐かしい気持ち。でも、牡鹿まで来たのは初めてです」と港を見ながら話します。「小さいまちながらも魅力ある場所なんです」と、八乙女さんを迎えたのは一般社団法人鮎川まちづくり協会代表理事の齋藤富嗣さん。2019年秋にオープンしたばかり

の「ホエールタウンおしか」で対談しました。

全国有数の捕鯨基地。今も残る文化と面影。

齋藤富嗣さん（以下齋藤） 震災前は、ワカメの養殖を営むかわら、金華山で民宿をやっていた。金華山というのは、鮎川から船で20分ほどの場所にある島です。津波が押し寄せてきたときの音は、今でも耳に残っていますね。がれきの匂いも。八乙女光さん（以下八乙女）

Yaotome Hikaru

八乙女光

PROFILE

1990年生まれ、仙台市出身。アイドルグループHey! Say! JUMPメンバー。2018年～2019年にはHey! Say! JUMPとして宮城県の観光キャンペーンのキャラクターを務めた。2020年東京五輪の聖火ランナーとして宮城県内を走る。

やおとめ
ひかる

数年で癒える傷じゃありませんよね。

齋藤 牡鹿では、被災したことによって人口流出に拍車がかかり、今は人口2500人弱のまちなりになりました。クジラ漁で栄えた昭和初期は、1万5000人以上が暮らすまちだったんですよ。

八乙女 鮎川はなんでクジラ漁をするようになったんですか？ 齋藤 もともとは小さな集落だったのですが、明治時代にクジラ漁の中継基地になりました。鮮度を保ったまま水揚げできる

立地だったこと、大きなクジラを解体できる土地があったことが要因だと思われれます。最盛期には、ここに約20社以上捕鯨会社があったんですよ。九州から移住してきた人もいました。子どもの頃、鮎川の海にクジラが何匹もぶかぶか浮いていたのを覚えています。

八乙女 クジラと言えば、刺身で食べるイメージが強いですがね。赤身の肉のような印象があります。鮎川でもクジラ料理は食べられるんですか？

齋藤 震災後は減ってしまっただけですが、おしかホエールタウンには、クジラ料理などを味わえる飲食店があります。クジラの肉やワカメなどの特産品を売るお店もありますよ。クジラは、オキアミや小魚などを食べるので、牛や馬などの赤身肉よりさっぱりした味なんです。

八乙女 飲食店はさつき覗いてきました。クジラ料理おいしそうでした！クジラだけじゃなく、地域の食堂みたいなメニューもあって、どの店もこだわりがありそう。迷っちゃいますね。ちなみにクジラ漁のこ

とを学ぶ施設はあるんですか？ 齋藤 2020年の春に、クジラの博物館おしかホエールランドがオープンする予定です。巨大なクジラの骨格も展示する予定なんです。その骨格は震災前も展示していた、天井から吊り下げていたので、津波に持っていけなかったんです。

八乙女 クジラの骨格、迫力ありそうだなあ！鮎川には今日初めて来ました。ちよっと回って来ましたが、おもしろな場所をたくさん見つけました。僕は今年、聖火ランナーとして宮城

県を走りますが、これをきっかけに、知られていない宮城の魅力をもっと発信したいと思っています。

Saito Tomiji

齋藤富嗣

PROFILE

1960年生まれ、石巻市出身。震災前まで金華山で唯一の民宿を経営。現在は、ワカメ養殖のかたわら、石巻観光協会の副会長を務め、牡鹿半島の観光振興に携わる。ホエールタウンおしかには計画段階から携わり、現在は代表理事を務める。

さいとう
とみじ



クジラが自慢のまち。
足を運んで面白さを感じて。



活躍する応援職員

SUPPORT POWER



「9年前、東日本大震災の状況をテレビで見、「行かなきゃ」と思ったんです。復興の一助になりたいの思いから、被災地への派遣を希望して、やっと来ることができました。そう話す榊さんは、生まれも育ちも鹿児島市。鹿児島市役所では、建築技師として公共施設の営繕や都市景観に関する業務を担当し、2019年4月に鹿児島市から石巻市に派遣職員として来ました。石巻市では、建設部建築課に所属し、石巻市蛇田支所と公民館の複合施設の建設や、渡波小学校講堂の改修工事を主に担当。「蛇田の複合施設は昨年12月に完了し、1月14日に開所。渡波小学校の講堂も1月末に完了したので、ひと息ついたところだ」と榊さん。蛇田支所と公民館の複合施設は、200人収容可能な大ホールや交流サロン、市民ギャラリーなどがあり、新たな地域コミュニティの拠点となる施設です。「よりよい施設にしたいというみなさんの思いが強く、意見がどんどん出て、でも工期は遅れないよう調整するのが大変でした。そう言いながらも榊さんは「いいものをつくりたい」という現場の熱気が好きなんです」と



昨年行われた「第96回川開き祭り」では、建設部女性技師グループで「ミニ孫兵衛船競漕」に出場し女性部門3位に、「練習は部活みたいで楽しかった。いい思い出です」と榊さん。

よりよいモノをつくりたい。その想いを形に

笑顔で話します。「他の自治体の考え方や業務のやり方を学ぶことができて、勉強になりました。これまで、どこかで固執した考えがあったと思うんです。様々な考え方に触れて、とても視野が広がりました。鹿児島市に戻っても、石巻にまた来たいなと思ってます。仙台空港と鹿児島空港の直行便はなく、移動に1日かかるので、頻繁にはいかないかもしれませんが（笑）。戻っても、石巻の情報収集はしていくと思います。来年は震災から10年の節目ですし、折々の節目には訪れたいですね」。

石巻市 建設部 建築課 営繕第一グループ 主任技師 榊 里子 さん
鹿児島県鹿児島市より石巻市に派遣

AREA information

復興や防災にまつわるニュースをお伝えします

マンガタン感謝祭2020

東日本大震災後2013年3月23日のリニューアルオープンを記念した毎年恒例の感謝祭イベント。防災サイエンスショーやマリンコンサート、2日間限定のワークショップやカフェメニューなど、大人も子供も楽しめる企画が盛りだくさん。石巻駅から石ノ森萬画館までの約1kmに点在する石ノ森キャラクターモニュメントの造形師によるトークショーも開催されます。



●日時:3月21日(土)～22日(日) 9:00～18:00
☎0225-96-5055(石ノ森萬画館)
https://www.mangattan.jp/manga/



小さな浜に人が集まる。あたたかい牡鹿半島。対談をした「おしかホエールタウン」の周辺は、まだまだ整備が進みます。「さつき八乙女さんが写真を撮った船、甲板まで登れるようにする予定なんです」と齋藤さん。「船」とは、今号の表紙で背景に写っている「第十六丸」のこと。捕鯨の歴史を伝える場として、鮎川港に

展示されています。「わ、次は登ってみたい！」と八乙女さん。対談のあとは施設をぐるり。鯨の歯で工芸品を作っている「千々松商店」では、クジラの髭や歯を触らせてもらい、興奮気味な八乙女さん。店主から「120年生きるとも言われるクジラの歯は、縁起物、魔よけなんです。歯の断面が年輪のようになっていて、ハンコにするときれいですよ」と説明を受け、「い



「千々松商店」で、クジラの歯でつくられたストラップをプレゼントされた八乙女さん。

つか実印をつくってみたい」と八乙女さん。おみやげ品を売る「くじら家」では、中学生がバッグやキーリングをデザインしたクジラ肉の缶詰を試食し、「おいしい！」と声を上げていました。



「やまのゐ」で犬塚さん一家と、ご近所の方々。

リアス式海岸が続く牡鹿半島は、鮎川浜のような小さな浜が点在します。次に訪れたのは萩浜。一般社団法人おしかリンク代表の犬塚恵介さんが運営する「やまのゐ」を訪ねました。「やまのゐ」は、古民家を改修したコミュニティスペース。「東京の大学生が訪れて、改装してくれています」とニコニコ話す犬塚さんは、震災後に愛知から牡鹿に移住。今は2人のお子さんと夫婦で暮らしています。「牡鹿半島は若い人が少ない。でも、人口が少ないから、私たちのほかにあと2、3世帯若い家族が暮らすようになったらそれで若返るんです。だから『やまのゐ』のような場所をつくることで、大学生が牡鹿半島の人たちと交流する機会をつくれたらな、と。東京に住む大学生がいつも牡鹿半島のことを思ってくれていたら、交流や移住につながるんじ

やないかなと思っています」。ここには不思議といつも人が集まるんですよ、という犬塚さんの言葉の通り、取材中も近所の方々がやってきました。「これ、とれたばかりだから」と近所のお母さんからワカメを受け取った八乙女さん。「まだ磯の香りがする！ワカメ、しゃぶしゃぶで食べるんですか？すごい、やってみよう！」。

「犬塚さんの話、響きました。東京から宮城のことを想い、宮城では東京の技術や人を受け入れる。そういう相乗効果は、なかなかすごくてあたたかく感じます。観光で遊びに来るのいいけど、宮城のゆっくり流れる時間と季節感とか、地元感みたいなのを感じてほしい。僕は宮城の想いを東京に持って帰って、みんなに伝える活動をしていきたいなと、今日とっても強く思いました」。



ホエールタウンでは、ワカメやホヤなどの特産品も。「ホヤ！これ、みんなに食べてほしいな」。



「やまのゐ」にて。牡鹿の人口について、まちの課題などを真剣なまなざしで聞く八乙女さん。

ここに注目! NOW IS. EYE'S

萩浜を見下ろす丘の上にある「やまのゐ」。古民家を改修し、土間や囲炉裏、星を眺める展望台など人が集う空間をつくっています。「学生たちと一緒に、ちょっとずつ開拓していきたい」と犬塚さん。



「やまのゐ」の林の奥、海を見下ろす場所に大学生たちが建てた展望台。

溺れる人をひとりでも少なく!



check! 01

アウトドアブランドが防災グッズを開発

警察庁資料から内閣府が作成したデータによると、東日本大震災で亡くなった方の死因の92.4%が溺死でした。津波による甚大な被害を表す数字ですが、この結果を受けて立ち上がった企業があります。それが、株式会社モンベル(本社:大阪府)です。アウトドアブランドとして人気のモンベルが、身近に備えて置けるフロートイングベスト「浮くっしょん」を開発したのです。

「浮くっしょん」は、大人用・子ども用の2種類があり、普段はクッションとして使えるので、お家でももちろん、幼稚園や学校の椅子に常備しておけます。津波や水害が起こったときには、カバーを外してフロートイングベストにし、命を守ることができます。

「浮くっしょん」の最大の特徴は、仰向けに浮くように設計されているだけでなく、枕のように頭の後ろを支える部分があること。気を失ってしまった場合でも、気道が確保されるので、生存の確率がぐっとあがります。



カバーを外して広げると、このようなフロートイングベストになります



普段は椅子にくくりつけてクッションとして使用できます。カバーの種類も豊富で選ぶ楽しみも

ます。また、助けを呼ぶためのホイッスルや存在を目立たせる反射板、氏名や連絡先を記入できるIDカードまで備わっている優れたものです。

check! 02

普段からの着用練習で「まさか」に備える



気道が確保された状態で浮かぶよう設計されています

とある幼稚園と保育所では、海岸との距離がわずか500mで、周辺に高台がないことから、この「浮くっしょん」を2012年に導入しました。毎月の避難訓練では「浮くっしょん」の着用練習を繰り返している、子どもたちも年中さんから年長さんになると、自分で着られるようになるそうです。

株式会社モンベル広報部の玉田咲さんは、「日常で使いながら、津波や洪水などの水害に備えることができます。ご家庭、学校関係、職場など

場所を問わず、常日頃から水害に備えられる手軽な防災用品として広がってほしいと考えております」と話します。台風による洪水被害も多い近年、この「浮くっしょん」は必須のアイテムといえそうです。

防災グッズとしてだけでなく、アウトドアの際にも活用できる「浮くっしょん」。この夏、ご家族で川遊びや海遊びに出かける方は、ぜひ水辺での着用練習をしてみたいかがでしょうか。

NOW IS. 防災

BOSAI FRONT LINE

PROFILE

株式会社モンベル

「function is beauty」と「Light & Fast」をコンセプトに登山用品、アウトドア用品(アウトドアウェア、アウトドアギア)の製造、販売を行っている。また、アウトドアイベントの企画運営なども行う。
https://www.montbell.jp/

Vol.11

01 震災復興ポスターを配布しています!

宮城県の復興の「いま」をお伝えするとともに、復興の過程で得られた新たな「価値・教訓」を全国に発信するため、今なお復興に向けて取り組む方々の決意や想いを表したポスターを4種類作成しました。震災の記憶の風化防止や、防災・減災を目的とした掲出を行っていただける方には無料でご提供いたします。



02 「宮城県震災復興パネル」の貸出しについて

宮城の復興状況をまとめた「宮城県震災復興パネル」の貸出しを行っています。防災等のイベントのほか、大勢の方にご覧いただける場所で展示いただける場合には無料で貸し出します(送料は利用者負担)。全10枚のうち、枚数を限定した貸出しも受け付けていますので、是非ご検討ください。

●仕様等
サイズ:A1、枚数:10枚、
貸出料:無料、送料:利用者負担

ポスターとパネルの詳細は
みやぎ復興情報ポータルサイトで検索

●県震災復興推進課 ☎022-211-2408



MEDIA INFORMATION



みやぎ復興情報ポータルサイトは
こちらから!



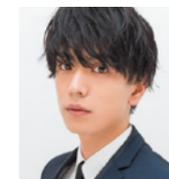
https://www.fukkomiyaagi.jp

宮城の復興情報を発信する、「みやぎ復興情報ポータルサイト」をリニューアルしました! 復興に関するお知らせや復興の進捗状況、復興に向けた取組などを発信します。

最新情報を
ブログで!

ブログピックアップ

黒羽麻璃央の 宮城の おいしいを お取り寄せ



黒羽麻璃央
仙台市出身の俳優、黒羽麻璃央さんが復興支援に成れたらと、被災沿岸市町のグルメを実際にお取り寄せしてご紹介します。

今回、黒羽麻璃央さんがお取り寄せしたのは、南三陸町の「パティスリーくりこ」のロールケーキ「絆ロール」。南三陸町の特産品、ワカメを使用した「絆ロール」は、震災から9年が経った今も愛されています。パティスリーくりこの想いとともにご紹介します。

いわたかれん 復興フォト



岩田華怜
これまでの被災地訪問は90回を超える岩田さん。「写真」に想いを込めて、被災地の状況を発信しています。今回訪れたのは「女川町」。木でできたお魚のキーホルダー「onagawa fish」を製作している「onagawa factory」や「OCHACCO」をご紹介します。

「みやぎ復興情報ポータルサイト」内の「NOW IS. 復興レポート」をご覧ください。

●いまを発信! 復興みやぎ



SNS「いまを発信!復興みやぎ」では、取材チームが見た被災地の「いま」を発信しています。皆さまからの投稿もお待ちしております。ハッシュタグ「#fukkomiyaagi」をつけて、撮影した画像をお寄せください。

●NOW IS. メールマガジン

NOW IS. の発行日(土日・祝日のときは翌平日)にメールでお知らせします。

NOW IS. メールマガジン で検索して登録!



リアス式海岸のすき間に生きる人々

牡鹿半島の海岸沿いを車で走ると、授業で習った「リアス式海岸」を体感できます。海岸線はずっとでこぼこ! 延々と続くカーブ! 崖の下はすぐ海で、平坦な土地はわずか。そんな場所で暮らすのが牡鹿半島の「浜」の人々でした。浜の「やまのゐ」で体験したように、浜の住人はみんな家族のよう。「なんだかやまのゐに車が停まっているから行ってみっぺ」と、皆さん集まってきたんだろうなと思うと、あったかい気持ちになりました。



みやぎのタカラ

Treasures of Miyagi

宮城県が得た震災の教訓や復興の道筋は、未来に役立つ宝に育ちつつあります。
この地で生きる人々の想いととも、世界に発信していきます。



FILE
No. 11

石巻・
牡鹿半島

ホエールタウンおしか

一般社団法人
鮎川まちづくり協会

グルメや展示、買い物。
多様な切り口で
文化を伝える。

2019年10月にオープンした「ホエールタウンおしか」。悠々と泳ぐクジラをイメージした流線形の建物が特徴的で、テラスに出ると、鮎川浜の海を一望できます。

現在オープンしているのは、「観光物産交流施設 Cotu(こつと)」と「牡鹿半島ビクターセンター」。Cotuには、震災前に鮎川浜で営業していた飲食店3軒と、海産加工品などを扱う土産物店、クジラの骨を使った工芸品の店が入ります。牡鹿半島ビクターセンターでは、牡鹿半島の自然や人々の暮らしを、わかりやすい展示やワークショップなどで紹介。季節ごとの楽しみ方を提案しています。

続いて、被災して閉館した「おしかホエールランド」が2020年春にリニューアルオープン。クジラの骨格標本などのほか、捕鯨の文化を楽しく学べる施設になる予定です。

食事も買い物も遊びも学びも、震災前とは少し違う新しいかたちで、牡鹿の魅力伝える施設になりそうです。



NOW IS. vol. 47 マイク

発行:2020年3月11日 宮城県震災復興本部(事務局:震災復興推進課)
〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町三丁目8番1号
Tel:022-211-2408 Fax:022-211-2493

『復興情報発信プロジェクト NOW IS.』は、宮城の復興の「いま」を伝えるプロジェクトです。

 宮城県
Miyagi Prefectural Government